

2 学 期	・発声の仕組みと要領を理解して、体で試す ・校歌(第2パート)～2部合唱へ	・授業の動機づけとして毎回行う ・主旋律との関係性を念頭におきつつ歌う(和声, かけ合い) ・フレーズのまとまりや表情を意識して厚みのある合唱にまとめる	(知) 知ることや技術を磨くことに前向きである、取り組みの姿勢が良好である、課題の達成度が高い(思) 作品の持ち味を表現に活かしている、説明や助言を取り入れ上達につなげた、練習過程における質問が的確である(態) 興味を持って積極的に取り組む、仲間と楽しく合唱している□	○	○	2
	・楽典 「音楽の原子・音程」(ワークシートを活用) 「楽曲の個性を決める・音階」(音源の活用) ・「音程」確認テスト(2度および3度音程について出題)	(音程) 2音の隔たりの数え方及び度数や種類による響きの差異や効果について理解する (音階) 長短音階・半音階・5音音階・琉球音階などの構成音を理解する。ともに実際の作品を聴き、各々の特徴を感じ取らせる。	(知) 知的好奇心に富み、取り組みの姿勢が良好である(思) 学習過程における質問が的確である(態) 根気よく前向きに取り組む(記録シート)	○	○	6
	・ギターの基本奏法(フレットと音階の関係、左右の手の作業)	・楽器について(各部の名称と働き) ・調弦の方法(EADGBEの合わせ方) ・C-dur音階練習(ワークシートを活用) 課題曲「エーデルワイス」 (曲の結びにアルペジオによるCコードを弾く)	(知) 知ることや技術を磨くことに前向きである、取り組みの姿勢が良好である、課題の達成度が高い(思) 楽曲の特性や良さを見出しよく吸収している、作品の持ち味を表現に活かすべく工夫する、説明や助言を取り入れ上達につなげている、練習過程における質問が的確である(態) 取り組み作品及び活動への興味関心、意欲に優れる、根気よく前向きに取り組む、他の生徒と協力して活動する(記録シート)	○	○	12
	ギター実技テスト	「エーデルワイス」独奏 滑らかな指の移動により自然かつ音楽的に旋律を歌わせる	(知) 楽譜通りに演奏できる、均質な響きがあり、音量も十分である(思) 作品の趣を音で表現できている、説明や助言を取り入れ上達につなげた(態) 主体的・前向きに練習に取り組んだ□ □ □ □	○	○	2
3 学 期	・西洋音楽史(解説と音源による)	・バロック～ロマン派の作曲家を主人公に、その人物像と作品について知る(ヴィヴァルディ～バッハ～モーツァルト～ベートーヴェン～リスト～ショパン)	(知) 知的好奇心に富み、取り組みの姿勢が良好である(思) 楽曲の美しさや趣の理由を感知し、作曲家の意図を汲んで楽曲を味わえる(態) 素直な耳と心で、分け隔てなく味わっている□ □ □ □	○	○	6
	ハンドベル合奏(グループ別) ・課題曲提示(複数曲) ・ベルの鳴らし方 ・無理のない分担方法 以上については、全体に指導するクラス内発表会 (すべての演奏について記録シートに講評を記入させる)	・グループ分け ・選曲 ・使用音とその回数調べ～受け持ち音の配分 ・練習計画 ・発表順 以上については、生徒主体に進める	(知) 美しく響きのある音を出せる、個々の音色が均一かつ滑らかに連なっている(思) 楽曲の個性や良さを掴み、演奏に生かしている、教員の助言を取り入れ、改善・上達につなげている(態) 経験者の少ない楽器の取り組みを試行錯誤を経て完成させた	○	○	12
合計						70